

第20回 自分の仕事を待っている誰かを思う

今回のゲスト

0

建設会社勤務、はじめての一般公募ゲストの谷口さんの仕事の楽しさは？

なぜ20年続けられるの？

お客様の姿を思い浮かべる。

ビジネスマンにも、元気玉が必要。

自分がもらっている「感謝」に気づく

今回は、美崎研究員がTwitterでゲストを募集。そこで来てくださったのが谷口さんです。「普通のサラリーマンなのに、いいんですか？」と、少々困惑気味の谷口さんでしたが、20年間同じ仕事を続けてきたというサラリーマンの大先輩ならではの、仕事を楽しむヒントが満載でした。

「20年間、どうして続けられたと思いますか？あの一、ボクは辞めちゃったんで」という美崎研究員の質問から始まりました。少し悩んだ谷口さんの答えは、「やっぱり家族がいたからだと思います。そうですね。守るものがあるというのは、サラリーマンの強みなのかもしれません。でも、仕事が嫌だと思うときはあったという谷口さん。ときにはうつ状態になって、会社へ行くのが辛くてたまらない時期もあったのだそう。けれど、次第に仕事に対する見方が変わり、仕事が楽しくなってきました。

「自分がやりたいこと」や「自分のこだわり」ではなく、お客様が何を求めているか。仕事を待っていてくれる相手のことを考えると、仕事が楽しくなってきたという谷口さん。たとえ、すべてが自分の思い通りにいかなくても、お客様にとっての100点を目指す。すると、「感謝」というフィードバックが来るようになりました。

仕事で感謝されるようになると、もっと人を喜ばせたいという気持ちが湧いてきました。これが仕事のモチベーションになっているという谷口さん。感謝だけじゃなく、クレームでもいいのです。大事なものは「反応」があるということ。美崎研究員もこれには激しく同意。「ドラゴンボールに出てくる元気玉みたいに、僕らにとっては、感謝されることが元気玉なんですよね」

「そのことにもっと若いときに気づけていたらよかったですけどね」と谷口さんはおっしゃいますが、20年間かけて磨かれた仕事観には説得力がありました。現在は部下を持つ立場でもある谷口さんは、若い世代に「元気玉」を渡せる仕組みづくりを今後の課題にしていきたいとおっしゃっていました。



谷口和信(たにぐち・かずのぶ)さん

1966年生まれ。1992年、九州大学大学院修士課程修了後、大手建設会社に入社。1996年から1998年の2年間イギリスの同社現地法人に転出。入社以来オフィスビルやマンションの設計を行ってきたが、最近では大型ショッピングセンターなど主に商業施設関連の設備設計業務に携わっている。5年ほど前、仕事のプレッシャーから軽度のうつ状態におちいるが、それを契機に完璧主義から脱却。今では、当時よりもプレッシャーがかかる状況であっても楽しく仕事をしている。自分の経験を生かし、プレッシャーの中でも楽しく仕事をする方法を伝えていきたい。今は仕事のストレスはほとんど感じていないが、あえて言うならストレス発散方法は週末に通うスポーツクラブでのエアロピクスと、通勤時間中の読書。電車内で本を読むことで、ONとOFF、仕事モードと家庭モードを切り替えている。今年45歳にして勉強会デビュー。仕事関係以外の人との交流の楽しさを知る。一級建築士、建築設備士。美崎さんがスーパーサラリーマンなら、私はスーパーを作っているサラリーマンです。



今回は、普通の会社員のお話。みんな悩みながら、楽しいコトを見つけながら働いているんですね。ゲストの一般公募企画、これからもどんどんやっていこうと思います。

リスナーへお知らせ！

仕事の楽しさを追求した1冊！

最新刊『**枠からはみ出す仕事術**』で発売中。

こちらをクリック！→ <http://amzn.to/dShb3I>

この番組へのご感想や、こんなゲストを呼んでほしい！
などのご要望を随時募集しています。こちらにご連絡ください。
a16.misaki@gmail.com

今回のゲストは・・・
精神科医の
西多昌規さんです。